

様 式 F-7-1

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成25年度）

1. 機関番号

3	2	6	0	4
---	---	---	---	---

 2. 研究機関名 大妻女子大学
3. 研究種目名 基盤研究(C) 4. 補助事業期間 平成23年度～平成26年度
5. 課題番号

2	3	5	2	0	0	5	8
---	---	---	---	---	---	---	---
6. 研究課題名 近世中国におけるムスリムの「釈疑」言説の研究

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
7 0 4 4 7 6 7 1	サトウ ミノル 佐藤 実	比較文化学部	准教授

8. 研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名

9. 研究実績の概要

前年度までの研究実績をふまえて、本年度は『清真釈疑』にみる「上帝」と「主宰」「真宰」の語の意味的差異から、金天柱ひいては中国ムスリムの日常的な神イメージを考察した。形而上学的な文脈で神を説明したり議論する際には、「主宰」「真宰」の語が使用される。両者の違いは、「主宰」が一般名詞として使われるのにたいし、「真宰」はムスリムがいう神、つまりアッラーを指している可能性が強い。一方で、日常的に神に対して礼拝をささげる、というような文脈で指示する場合は「上帝」の語もつばら使われている。とくに、沐浴をしてから礼拝をするといった、日常的な身体的動作をともしう場合にはほとんど、その礼拝対照は「上帝」と呼ばれる。これは「上帝」という漢語が伝統的で歴史を有する語であり、中華に住まい、漢語を母語とする人びとにとって、日常語として血肉化した語であると考えられる。それは、本来は儒家的な用語ではあるが、中国ムスリムにとっても母語であった。また、時代はやや下るが、「上帝」という語があたかもアッラーという名を忌むかたちで、つまり神の字（あざな）として人びとが使っているという回儒からの指摘もある。漢語を母語とする人びとの「上帝」という語にたいする感覚がみてとれる。さらにいうならば、中国ムスリムとしては、そうした「上帝」にたいして、毎日、礼拝を捧げ、つねに「上帝」をところに抱いているという自負があり、彼らからみれば、漢族をはじめとする人びとが儒教の規範を実践していないと写った。そのために『清真釈疑』では儒家批判の言説がしばしば見られる。